

## 検 定 意 見 書

受理番号 104-32		学校 高等学校		教科 国語	種目 国語表現	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	15	下12	「問題に対する『答え』を共有する」	不正確である。 (引用が不正確。)	3-(1)	
2	20	上囲み	(「フォーマル」5行目) 長文を多用する	生徒が誤解するおそれのある説明である。 (言葉選びについて誤解する。)	3-(3)	
3	28	上8	その結果	生徒にとって理解し難い例示である。 (用例に照らして理解し難い。)	3-(3)	
4	28	下3	言うなれば	生徒にとって理解し難い例示である。 (用例に照らして理解し難い。)	3-(3)	
5	29	上3	また	生徒にとって理解し難い例示である。 (用例に照らして理解し難い。)	3-(3)	
6	30	上囲み 22	文字情報をグラフ・表・図解に変換したり	生徒にとって理解し難い表現である。 (「図解に変換したり」。)	3-(3)	
7	36	上2- 3	身体表現によって、どのような情報を伝えたり受け取ったりするのかに気づくため、	生徒にとって理解し難い表現である。 (「身体表現によって…受け取ったりする」。)	3-(3)	
8	39	上13	F椅子に座って、脚を足を組む。	誤記である。	3-(2)	
9	41	上12 -13	「私は死神です。あなたをお迎えに来ました。最後の望みを教えてください。」	生徒にとって理解し難い表現である。 (41ページ下の例に照らして理解し難い。)	3-(3)	
10	43	上13 -14	ここで学習した身体表現のスキルを、発表や話し合いの場合で、また、ふだんの生活の中で、どのように生かすことができるか考えてみよう。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「発表や話し合いの場合で」。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

## 検 定 意 見 書

受理番号 104-32		学校 高等学校		教科 国語	種目 国語表現	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
11	43	下14-15	見つかったらしょうがないね。	脱字である。	3-(2)	
12	50	下4	私は春山高校三年の木村優斗と申します。	表記が不統一である。 (51、58、59ページに照らして不統一。)	3-(4)	
13	54	上囲み9	きっかけ (58ページ上囲み7行目も同。)	誤記である。	3-(2)	
14	88	下8-12	※「客観的」であるとは、誰が見てももっともだというような見方や考え方を する様子や態度、傾向をいい、これ に対して自分にしか受け入れられない ような見方や考え方を する様子や態度	生徒にとって理解し難い説明である。 (直前の内容に照らして理解し難い。)	3-(3)	
			、傾向を「主観的」という。			
15	105	囲み	(4行目) 図から、高齢者世帯の増加が分かる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (図のグラフに照らして理解し難い。)	3-(3)	
16	105	囲み	(24-25行目) 高齢者のみの世帯の手伝いをどの世帯 が手伝うか	生徒にとって理解し難い表現である。 (「手伝いを…手伝うか。)	3-(3)	
17	132	1	アクティブ・ブック・ダイアログ (同ページ上5-6行目も同。)	特定の商品の宣伝になるおそれがある。	2-(7)	
18	132	吹き出し	(2行目) マジック	特定の商品の宣伝になるおそれがある。	2-(7)	
19	141	右、中	(「広報いちかわ」の図版) 電話番号とFAX番号	特定の団体の利益を侵害するおそれがある。 (団体の業務に支障をきたすおそれがある。)	2-(8)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

## 検 定 意 見 書

受理番号 104-32		学校 高等学校		教科 国語	種目 国語表現	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
20	149	上囲み 左8	来場者の多かった団体 (同ページ上囲み左10行目の「来場者 数第1位」、上囲み右2行目の「来場 者数第2位」も同。)	生徒にとって理解し難い表現である。 (144ページに照らして理解し難い。)	3-(3)	
21	162	上6	よかったねよ	誤記である。	3-(2)	
22	165	上囲み 31	〇〇市教育員会	脱字である。	3-(2)	
23	169	左	(2コマ目) 企	表記の基準によっていない。 (常用漢字表外の訓であるのに読み方が示されてお らず、表記の基準によっていない。)	3-(4)	
24	177	下14 -18	エッセーの魅力の多くは、読者が「確 かにそんなこと、ありそうだなあ。 」と共感できたり、「へえ、そうなの か。」と驚きや意外性を感じさせたり するところにある。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「読者が…驚きや意外性を感じさせたりする」。 )	3-(3)	
25	179	上6- 8	困らせる問題や状況を考えたら次は、 主人公ならばその問題にどう対処する だろうかを想像をめぐらせていこう。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「どう対処するだろうかを想像をめぐらせていこ う」。)	3-(3)	
26	183	柱	表現を楽しもう	表記が不統一である。 (他のページに照らして不統一。)	3-(4)	
27	185	下11	耀	表記の基準によっていない。 (常用漢字表外の字であるのに読み方が示されてお らず、表記の基準によっていない。)	3-(4)	
28	193	最上段	(写真) 「Slatnar」 「WÜRTH」	特定の営利企業の宣伝になるおそれがある。	2-(7)	
29	193	最下段	(写真) 「Red Bull」 「エイブル」 「バスクリ ン」 「ANA」 「KOSE」 「HAKKAISAN」	特定の営利企業の宣伝になるおそれがある。	2-(7)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

